

「リメンブランクス・マーダーズ ～最後の酒杯～ 紹介文」

岡和田晃

今回「SF Prologue Wave」で発表されたのは、『エクリップス・フェイズ』日本語版翻訳監修者の朱鷺田祐介による「リメンブランクス・マーダーズ 最後の酒杯」である。

この作品は、「ミートハブ・マーダーズ あるいは肉でいっぱい宇宙(そら)」、そして「ウィツプラッシュ・マーダーズ 殺人鬼はどこにいる?」に続く第三作にあたるが、この連作に限らず朱鷺田祐介の『エクリップス・フェイズ』小説に登場していた主要人物ランディ・シーゲルが、本作には登場していない。だからといって読めないということではなく、むしろ一連の作品を未読の方でも、本稿には入りやすくなっている。

さて、本作は5版『孤独のグルメ』というか『深夜食堂』というか……どこかそういった作品にも通じる哀愁がある種のペーソスとして添えられているところが得に魅力的だと思う。あまり知られていないかもしれないが、架空世界の生活を丹念に構築するRPGでは、食の描写にこだわりを見せると、ぐっと楽しくなる。現在、RPGテイストあふれる九井諒子の『ダンジョン飯』が話題沸騰中だが、フィクションならではの独自

メニューを活かすという意味では、おそらく同作にも多大な影響を与えているだろう。深澤美潮の『フォーチュン・クエスト』ともども、SFの本質につながる問題を扱っていると言えるだろう。

SFと食、というのは大きなテーマだが、それをコンパクトなエッセンスとして、重たくなりすぎない程度に扱っている。「リメンブランクス・マードーズ」。『エクリプス・フェイズ』ならではのがジェット紹介は見事で、入門にもってこい。どうぞ、お愉しみにいただきたい。

フラット（未調整の義体）着装者が重要な役目を果たしているのも特徴的だ。木星共和国を扱ったSF Prologue Waveならば「[蠅の娘](#)」あたりと併せて読むのも面白いだろう。

朱鷺田祐介はPS VISTAのRPG『魔都紅色幽撃隊 幽撃ウォーカー』のノベライズ『魔都紅色幽撃隊 FIREBALL SUMMER GIG』（西上柁との共著）を刊行したばかりだが、神話・伝承の解説者としても『超古代文明』や『海の神話』といった著作がある。本作で朱鷺田の作品に触れた読者は、丹念なフィールド・ワークをベースに描かれた『酒の伝説』にもアクセスしていただきたい。